

【事例より学ぶ】
合理的配慮の事例

大阪府立 藤井寺支援学校

学習指導の場面で

- 児童の実態

- 課題を行う際、周りの動き（教師や友だち）が気になり、課題に集中して取り組むことが難しい。



- 配慮点

- 衝立を机の周りに置くことで、周りからの刺激を少なくすることができる。
- 課題を三段BOXの中に配置することで、『BOXの中の課題が無くなる→学習時間の修了』を自分で理解できるため、活動に見通しを持つことができる。

衝立
:周りの物を隠す



三段BOX
:スケジュールの提示

「書く」・「描く」の場面で

- 児童の実態

- 手首や指に変形があったり、低緊張である。
- 物を握る力が弱い児童



100均一で購入できるお風呂用の
ブラシ。
穴をあけてペンを差し込むだけ。

• 配慮点

- 指の間に止まりやすく、筆やペンなどの固定が可能。
- 自分の力で描くことができる。

学習の場面で

- 生徒の実態
 - 空間認知が苦手で、漢字を書くときに字のバランスが悪くなったり、枠からはみ出たりしてしまう。

- 配慮点

- 漢字プリントの枠を大きめに設定したり、四角の枠の中に十字の点線の補助線を引いたりして配慮する。

学習の場面で

- 生徒の実態
 - 1時間の授業の流れや次に何をすることが分からないと落ち着いたり集中したりできない。

AFTER



- 配慮点
 - 見通しが立つように、授業の流れをカードにして視覚的に提示する。

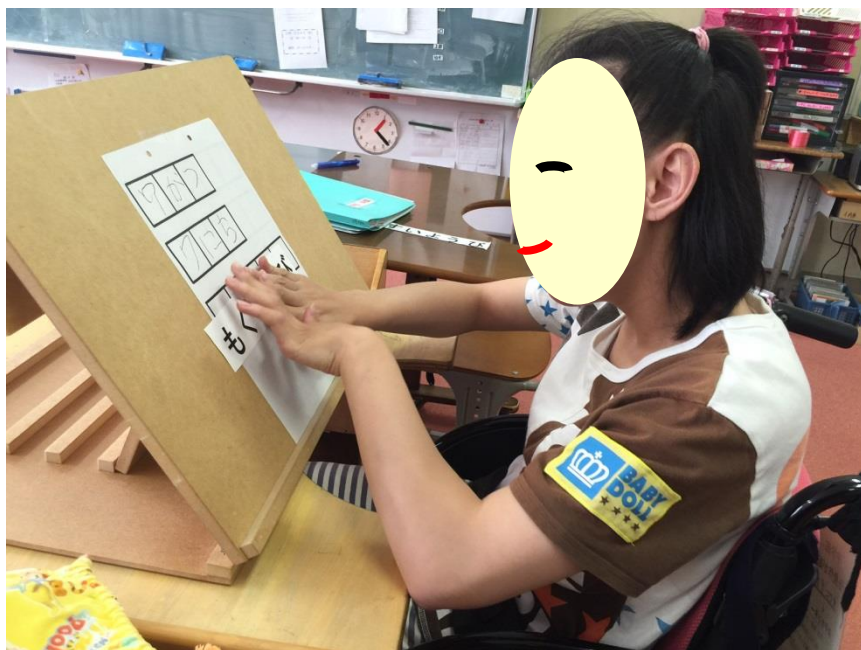
学習や給食の場面で

- 児童の実態
 - 弱視なので物を集中して見たり、操作するとき姿勢が悪くなってしまう。

BEFORE



AFTER



• 配慮点

- よい姿勢を保持して給食を食べられるように台などを使って高さを調整する。
- 姿勢よく活動できるように書面台を活用。

日常生活の場面で

- 生徒の実態

- 右手に麻痺があり、左手だけの操作で生活している。
- 必要なものをとる場合は、車椅子の後ろに積んでいるので、周りの人にも取ってもらっていた。



- 配慮点
 - 左手が届く範囲に必要なものを置くことができるようにかご等を取り付けている。
 - これによって自分で考えて行動するという課題にも取り組めるようになった。

日常生活の場面で

- 生徒の実態

- 左片マヒのため、自体の左側へ意識が向きにくい。左肩が徐々に下がってきて、姿勢が崩れてしまう。

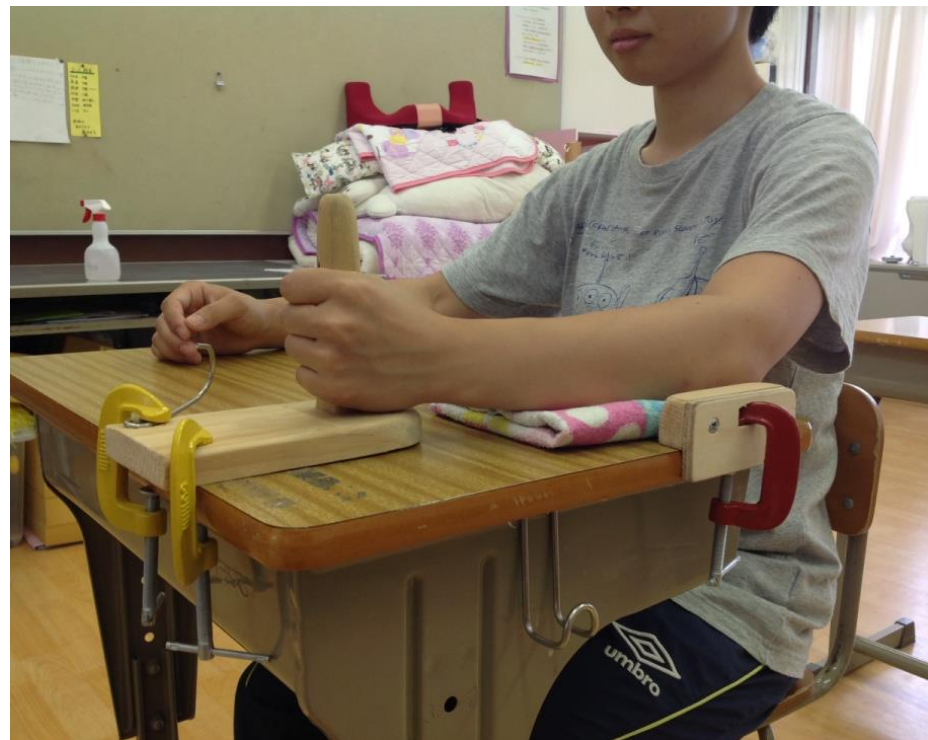
BEFORE



- 配慮点

- 左手を机の上に置くことで姿勢が安定する。
- マヒのある左手を保持しやすくするため、持ち手や左ヒジのストッパーを設置している。

AFTER



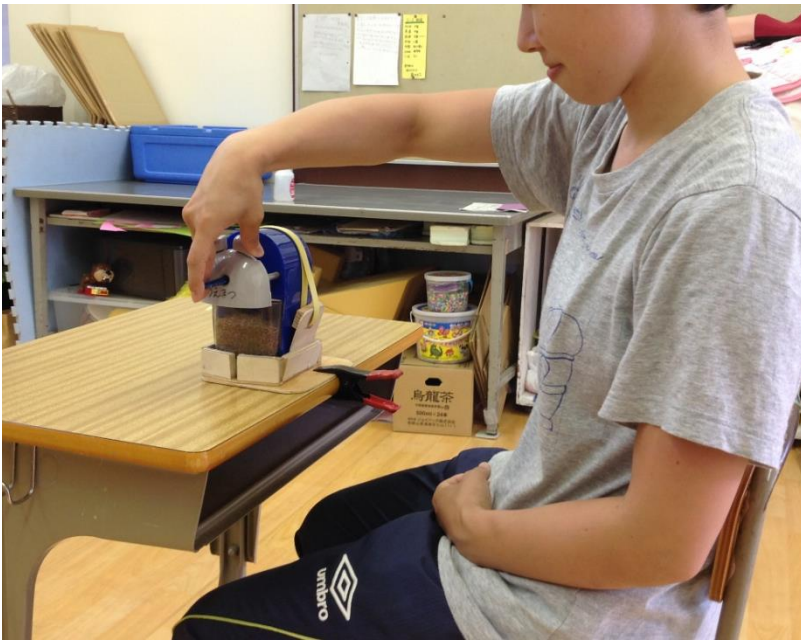
日常生活の場面で

- 生徒の実態
 - 左片マヒのため、両手を使って作業することが難しい。(鉛筆削りの使用)

AFTER

- 配慮点

- 本来なら両手を使わないと作業が難しい鉛筆削りも、木枠・ヒモ・強カクリップで動かないように固定すると、右手だけで鉛筆を削ることができる。



日常生活の場面で

- 生徒の実態

- 左片マヒのため、両手を使って作業することが難しい。(巾着袋の開閉)

AFTER



- 配慮点

- 両手を使わないとしぼることが難しい巾着袋も、片側のヒモを引っ掛ける場所を設けると、右手だけでしぼることができる。

(開ける時も同様)

日常生活の場面で

- 児童の実態
 - 全盲
 - 白杖を使っての移動の練習中





- 配慮点

- 一人での移動をめざしている。
- 自ら危険箇所も察知して欲しいが、練習中のため、怪我予防

顔の高さにウレタンシートを貼っている

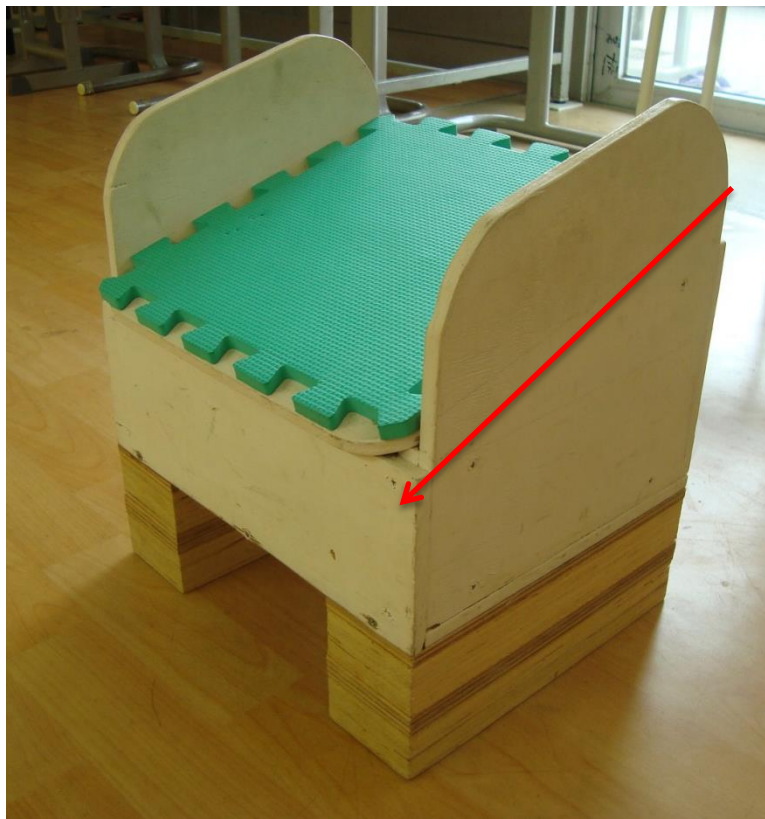
日常生活の場面で

- 児童の実態
 - 椅子には座ることができるが、足裏を床につけず、膝を伸ばしてしまふ。
 - 腰が丸くなって姿勢の保持が難しい。

BEFORE



AFTER



- 配慮点
 - 座面に傾斜をつけた椅子。
 - 座った時に重心が少し前にくる。足裏を床につけて、身体を支える練習ができる。

トイレの場面で

- 児童の実態
 - 支えがない状態では自分で上体をまっすぐに保持することが難しい。



AFTER

机

:肘を付くことで、
上体を保持しやす
くなる



• 配慮点

- 机を置くことで、前腕部をつくことができ、上体を保持しやすくなる。
- 足元に台を置くことで、身体に力を入れやすくなる。

足元の台

:身体に力を入れやすくする

自立活動の場面で

- 児童の実態

- 上肢のマヒがあり、作業学習や美術の時間に、はさみをにぎり操作することが困難である。



- 配慮点

- はさみの握りが困難な場合でも、持ち手に手をそえてボタンを押すことで、小さな力で切ることができる。



給食の場面で

- 児童の実態
 - 口腔嚥下機能の低下により、普通食の喫食が困難



- 配慮点

- 口腔・嚥下機能に
応じた食形態の
給食を提供



ふつう食



きざみ食



ペースト食